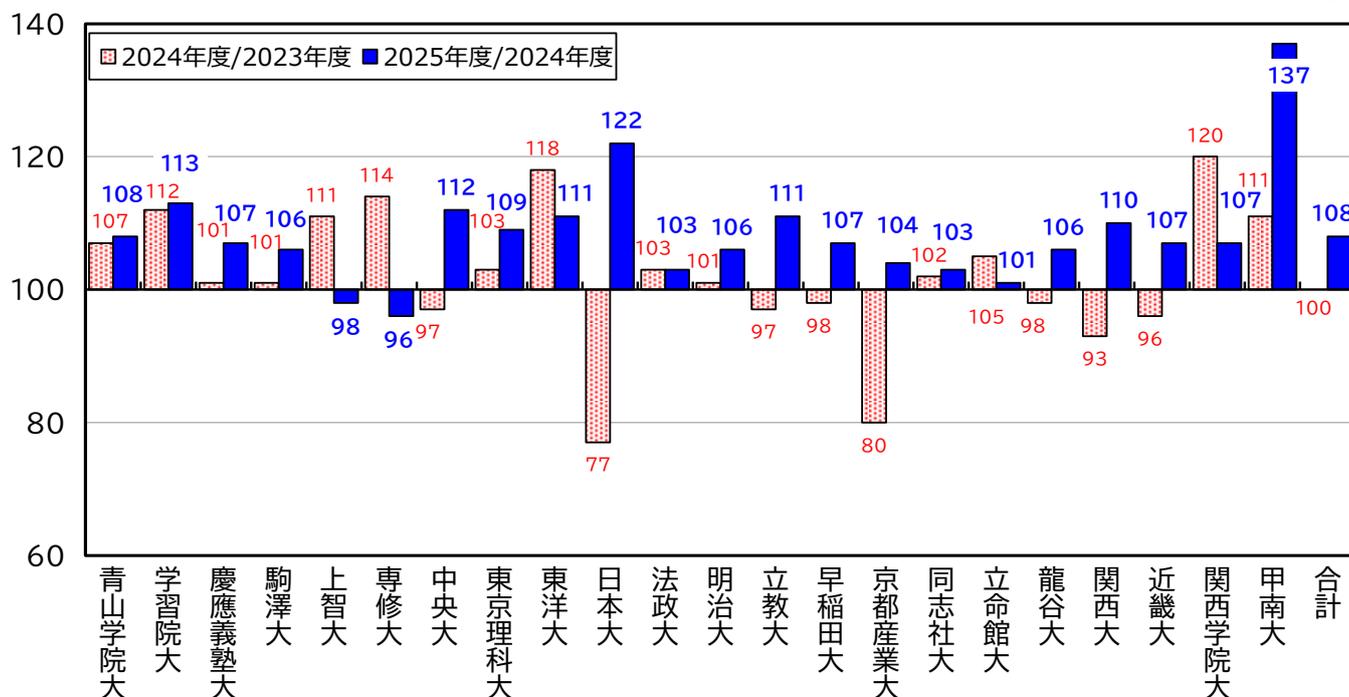


※本文中の()内の数値は、志願者数の前年度対比指数を表します。

◎主要私立大学 志願状況概況

大学	2025年度			2024年度			志願者指数 (2025年度/2024年度)		
	一般方式	共通テスト 利用方式	合計	一般方式	共通テスト 利用方式	合計	一般方式	共通テスト 利用方式	合計
青山学院大	27,616	23,056	50,672	25,068	22,041	47,109	110	105	108
学習院大	17,581	5,207	22,788	16,183	4,062	20,245	109	128	113
慶應義塾大	40,132		40,132	37,600		37,600	107		107
駒澤大	20,543	12,153	32,696	19,715	11,178	30,893	104	109	106
上智大	5,262	23,834	29,096	4,966	24,603	29,569	106	97	98
専修大	31,956	17,066	49,022	33,574	17,715	51,289	95	96	96
中央大	48,475	25,328	73,803	44,708	21,285	65,993	108	119	112
東京理科大	37,385	19,654	57,039	35,073	17,188	52,261	107	114	109
東洋大	70,097	43,665	113,762	58,079	44,831	102,910	121	97	111
日本大	68,492	23,740	92,232	59,828	16,011	75,839	114	148	122
法政大	70,832	34,275	105,107	70,667	31,502	102,169	100	109	103
明治大	83,403	31,920	115,323	80,589	28,570	109,159	103	112	106
立教大	38,242	24,587	62,829	34,224	22,271	56,495	112	110	111
早稲田大	63,184	32,754	95,938	72,815	16,605	89,420	87	197	107
京都産業大	21,754	10,001	31,755	21,463	9,007	30,470	101	111	104
同志社大	42,669	10,060	52,729	40,731	10,243	50,974	105	98	103
立命館大	60,399	36,518	96,917	59,412	36,367	95,779	102	100	101
龍谷大	41,430	22,022	63,452	39,657	20,333	59,990	104	108	106
関西大	54,667	25,168	79,835	52,025	20,563	72,588	105	122	110
近畿大	109,530	47,996	157,526	108,250	38,850	147,100	101	124	107
関西学院大	35,548	20,688	56,236	33,197	19,427	52,624	107	106	107
甲南大	18,682	6,702	25,384	13,506	5,014	18,520	138	134	137
合計	1,007,879	496,394	1,504,273	961,330	437,666	1,398,996	105	113	108

※4/11現在



上のグラフと表は、2025年度入試における主要私立大学の4月11日時点での各大学発表による志願者数の確定値を集計したものです。なお、2024年度の志願者数についても、前年度最終集計から一部の大学が修正を行いましたので、それを反映させた数値です。

□志願者数が増加したのは 20 大学で、減少は2大学のみ

グラフと表に掲載した大学で、前年度より増加したのは20大学で減少は2大学のみでした。安全志向から国公立大併願者を含めて併願校数を増やしたことで、地方から都市部の私立大への志願者数が回復したことなどから、全体的に増加傾向が強くなりました。

大学別に見ていくことにします。甲南大(137)、日本大(122)はいずれも大幅増加、学習院大(113)、中央大(112)、東洋大(111)、立教大(111)、関西大(110)、東京理科大(109)、青山学院大(108)はいずれも増加、慶應義塾大(107)、早稲田大(107)、近畿大(107)、関西学院大(107)、駒澤大(106)、明治大(106)、龍谷大(106)、京都産業大(104)、法政大(103)、同志社大(103)はいずれもやや増加、立命館大(101)は微増でした。

一方で、減少は2大学のみで、専修大(96)はやや減少、上智大(98)は微減でした。

増加した大学では、甲南大(137)は、入試日程を早め、必要科目を<前期>(130)は3教科型、<中期>(209)は2教科型に統一しました。また、「外国語」を全学部・学環において共通問題(マーク式)としたことで、併願がしやすくなり、<一般>(138)の大幅増加で3年連続増加でした。<共テ>(134)では新規方式を導入したこともあり大幅増加でした。日本大(122)は、前年度大学を取り巻く厳しい環境から全体で23%減少し、志願者数は7万6千人を下回りました。今年度は<一般>(114)の増加、<共テ>(148)の大幅増加となった結果、志願者数は9万2千人を上回りました。

一方で、専修大(96)は、前年度5年ぶりに増加し、志願者数が5万1千人を上回りましたが、<スカラ>(78)、<全国>(83)などの方式で大幅減少し、やや減少となりました。

グラフと表に掲載した大学で志願者数が10万人を上回ったのは、近畿大、明治大、東洋大、法政大の4大学で、前年度と同じ大学でした。近畿大(107)はやや増加でしたが、千葉工業大(114)が全国最多となり、12年連続最多とはなりません。

方式別では、共通テスト利用方式(113)の増加に対して、一般方式(105)はやや増加となりました。共通テスト利用方式では、早稲田大の<共テ>(197)のほぼ倍増や、日本大(148)、甲南大(134)といった30%以上増加した大学が目立ち、共通テスト利用方式を実施していない慶應義塾大を除く21大学中16大学で増加しました。共通テスト利用方式に新方式を導入した大学があったことに加えて、難関大では国公立大との併願者も多く、この層が受験料や試験対策の負担が軽い共通テスト利用方式を積極的に利用したことも要因です。